

第 62 回クラシックを楽しむ会

2019 年 1 月 20 日 (日) 18:00～ (2 時間 12 分、休憩除く)

タイトル：**喜歌劇「メリー・ウイドウ」(レハール)**

会場等：メルビッシュ音楽祭 1993、オーストリア、
ノイジードラー湖特設ステージ
(1993 年 12 月 31 日)

管弦楽：ブラティスラヴァ・フィルハーモニー管弦楽団、同合唱団

指揮：コンスタンティン・シェンク

演出：マイケル・モラー

出演：エリーザベト・カーレス (ハンナ・グラヴァリ)
ペーター・エーデルマン (ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵)
マルティーナ・ドーラック (ヴァランシェンヌ)
ローレンス・ヴィンセント (カミーユ・ド・ロション)
ギドン・シンガー (ミルコ・ツェータ男爵)
タディアス・ポゴルスキー (ニェーグシュ)
その他



第 2 幕フィナーレ、ハンナとカミーユが??

出演者

エリーザベト・カーレス(1951 - 2005)はオーストリア生まれ、「宮廷歌手」の称号を授与されたが癌で死去。

ペーター・エーデルマン(1962 -)はウィーン生まれのバリトン歌手。ウィーン音楽大学の研究所長。2018 年からメルビッシュ音楽祭の監督兼芸術監督。**マルティ**

ーナ・ドーラックはウィーン生まれ。ステージ以外にテレビ出演も多く、オペレッタからミュージカルまで幅広い分野で活動している。**ローレンス・ヴィンセント**、**ギドン・シンガー**も世界的に活躍中。

あらすじ

舞台はパリのポンテヴェドロ公国公使館庭園、大公の誕生日祝賀パーティー。公国の富豪の未亡人ハンナ・グラヴァリと元恋人で公使館書記官ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵、公使のツェータ男爵とその妻ヴァランシェンヌおよびヴァランシェンヌの恋人カミーユが主な登場人物。

国を憂えるツェータ公使は、もしハンナ未亡人が外国人と再婚すると莫大な資産流出で公国が破滅することから、ハンナを同国のダニロと結婚させようとしている。

聴きどころ

第 1 幕「**ダニロ登場の歌**」(マキシムの歌)、第 2 幕ハンナが歌う有名な「**ヴィリアの歌**」、男たちの七重唱「**女の研究は難しい**」、ダニロの「**昔、王子と王女がおりました**」、第 3 幕**カンカン踊り**、ハンナとダニロの二重唱「**唇は黙し**」(メリー・ウイドウ・ワルツ) などみどころ聴きどころ満載!



カーレス

エーデルマン

ドーラック

第 63 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：**歌劇「トスカ」(プッチーニ)**

3 月 24 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

ザルツブルク復活祭音楽祭 2018。ティーレマン指揮のドレスデン国立管弦楽団に、歌手陣はハルテロス、アントネンコ、テジエの豪華陣! 現代クライム・サスペンスのタッチで描いた新演出は最後にも驚きの仕掛けが・・・

4 月以降、ザルツブルク音楽祭 2018 年 8 月の歌劇「スペードの女王」、ベルリン国立歌劇場 2018 年 6 月公演の歌劇「マクベス」、ミラノ・スカラ座 2018/19 開幕公演の歌劇「アッティラ」などを予定。

あらすじ

【時と場所】

1905年初演当時のパリ

【登場人物】

| | |
|--|---|
| ハンナ・グラヴァリ (ソプラノ) | ポンテヴェドロ国の大富豪未亡人 |
| ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵 (バリトン) | ポンテヴェドロ国パリ駐在公使館付一等書記官 ハンナの元恋人、退役騎兵中尉 |
| ミルコ・ツェータ男爵 (バリトン) | ポンテヴェドロ国パリ駐在公使 |
| ヴァランシエンヌ (ソプラノ) | ツェータ男爵の妻、元マキシムの踊り子 |
| カミーユ・ド・ロション (テノール) | パリ社交界の伊達男、ヴァランシエンヌの浮気相手 |
| ニューグシュ (俳優) | ポンテヴェドロ公使館員、元マキシムのボーイ長 |
| マキシムの踊り子 (ロロ, ドド, ジュジュ, クロクロ, フルフル, マルゴ) | |

【第1幕】パリにあるポンテヴェドロ国の公使館

パリのポンテヴェドロ公使館。公使のツェータ男爵の悩みは、東欧の小国ポンテヴェドロの大富豪未亡人ハンナがパリに住居を移したこと。もしハンナがパリの男と再婚したら、莫大な遺産が母国から流出して国の存亡に関わる。そこでツェータ男爵は、公使館の書記官ダニロ伯爵を彼女と結婚させて、遺産が他国に流出するのを食い止めようとする。

実は、ダニロとハンナは過去に愛し合っていた仲だったが、身分の違いからダニロの親族が反対したため、結婚できなかったという経緯があった。ダニロは、大金持ちとなったハンナに、いまさら結婚したいと言いつけられない。ハンナも意地があり、素直になれない。

【第2幕】パリにあるハンナの邸宅の庭園

翌日、ハンナ邸で開かれた夜会で、ツェータ男爵の妻ヴァランシエンヌが、パリの色男カミーユに口説かれていた。ヴァランシエンヌは自らの扇子に「私は貞淑な人妻です」と書いて誘いを断るが、ヴァランシエンヌはとうとうカミーユの誘惑に負けて庭の小屋で二人きりになる。

それに気付いたのが夫のツェータ男爵。怒って現場を押さえようとする、小屋から出てきたのはカミーユとハンナ。ヴァランシエンヌを救うためにハンナがうまく入れ替わったのである。そして成り行きでハンナは、カミーユとの婚約を発表する。ダニロはそれを聞いて動揺が隠せない。彼の動揺する姿から、ハンナは自分への愛を確かめることができたのである。

【第3幕】マキシム風に飾り付けたハンナの邸宅

ダニロは、祖国存亡の名目もあり、ハンナとカミーユの結婚を阻止しようとハンナを説得。カミーユとの結婚はなくなり、ダニロとハンナは和解するがダニロは結婚を申し込もうとしない。

このときハンナは、亡夫の遺言「再婚するなら、彼女は全財産を失う」を明かす。それを聞いてダニロは喜んで即座に求婚。ハンナは喜んでこの申し出を受け遺言の続きを明かす。そこには「彼女の失った全財産は、再婚相手に与える」と。

ハンナ邸の庭の小屋にヴァランシエンヌの扇子が落ちていたことから、カミーユとの一件が、ツェータ男爵の知るところとなる。ツェータ男爵がヴァランシエンヌに離婚を告げると、彼女は扇子を開くように言う。そこには「私は貞淑な人妻です」と書かれており、ツェータ男爵は妻に許しを求め、最後は一同愉快な歌で幕となる。

オペレッタの「黄金時代」と「白銀の時代」

19世紀半ばドイツ出身**オッフェンバック**の「**天国と地獄**」がパリ市民の人気を博し世界中に広まった。彼のオペレッタはウィーンで**スッペ**や**ヨハン・シュトラウスⅡ世**らに受け継がれ**オペレッタの「黄金時代」**を迎えた。**ヨハン・シュトラウスⅡ世**の「**こうもり**」がその代表である。

その後オペレッタの人気は下火になり低迷していたが、「**こうもり**」初演の31年後、20世紀に入って初演された**レハールの「メリー・ウイドウ」**が爆発的にヒットしてウィーンに**オペレッタの「白銀の時代」**といわれる隆盛期をもたらした。

「こうもり」と「メリー・ウイドウ」

「**こうもり**」と「**メリー・ウイドウ**」は共に現在最も多く上演される喜歌劇の最高傑作であるが、ウィーンのアム・デア・ウィーン劇場初演時の人気では「**こうもり**」が”かなりの成功”を収めたのに対して「**メリー・ウイドウ**」は”500回を超える大ヒット”だった。世紀末、帝国末期の不安な時代の「現代劇」だったから洗練された娯楽を求めるウィーン市民の共感を呼んだと思われる。

原作者アンリ・メイヤック

喜歌劇「**メリー・ウイドウ**」はメイヤックの喜劇「**大使館付随員**」が原作で、台本作者は**ヴィクトール・レオン**と**レオン・シュタイン**である。

メイヤック(1830 - 1897)自身はフランスの戯曲作家・台本作家である。友人のリュドヴィック・アレビとともに、オッフェンバックの喜歌劇「**美しきエレヌ**」、喜歌劇「**パリの生活**」など多数の台本を共作。これらは1867年のパリ万国博覧会の内外観光客を魅了し、劇場は爆笑でにぎわった。その後も、メリメ原作のビゼーのオペラ「**カルメン**」台本の共作、アベ・プレヴォ原作のマスネーのオペラ「**マノン**」の台本の共作などが有名である。アカデミー・フランセーズ会員。



メイヤック

フランツ・レハール

レハール(1870 - 1948)は軍楽隊長だった父の任地を転々とした。プラハ音楽院に学び、ヴァイオリン奏者、軍楽隊長の後、ウィーンの劇場の指揮者になった。有名なワルツ「**金と銀**」作曲後、「**メリー・ウイドウ**」の大ヒットで一躍名声を確立、「**微笑みの国**」などを作曲した。政治には無関心だったが夫人がユダヤ人なのに「**メリー・ウイドウ**」を愛したヒトラーに優遇され、戦後はナチ協力者として非難された。

右の写真は、「**メリー・ウイドウ**」初演時(1905年)のレハール(右端)とダニロ役ルイ・トロイマン(左)およびハンナ役ミッツィ・ギュンター(右)。



初演時の主役とレハール(左端)

1905年初演当時の政治的時代背景

普墺戦争に敗れてできた妥協のオーストリア＝ハンガリー二重帝国、バルカン半島小国に影響力をもつロシア帝国、露土戦争に敗れたオスマン帝国。それぞれ民族運動、独立運動、革命運動に揺れていた。1905年(明治38年)は特別な年である。ロシア帝国は血の日曜日事件、日本海海戦敗戦、戦艦ポチョムキン反乱。オスマン帝国では後にトルコ共和国初代大統領になるケマル・アタチュルクが陸軍大学を卒業。アドルフ・ヒトラーは実業学校中退で16歳、ロシア帝国に同調したモンテネグロ公国は日本に宣戦布告、憲法を制定してモンテネグロ王国成立(喜歌劇「**メリー・ウイドウ**」の「**ポンテヴェドロ国**」のモデル)。

この後ロシア帝国は二月革命で消滅、オーストリア＝ハンガリー二重帝国とオスマン帝国はドイツ帝国とともに第一次世界大戦敗戦でそれぞれ消滅する。